

玉上薬局



玉上薬局(たまがみやつきよく)

建築年:店蔵・文化3年(1806)

玉上家は、桐生新町草創期にこの地に移住し、家を構えたと言われています。玉善織と名付けて販売し、織物業を営んでいました。後に、織物業から薬種業を営み、現在の玉上薬局となりました。

この建造物は、防火を強く意識し、土蔵造となっています。また、屋根の形状が妻入りと平入りの接続された形式となっており、下屋が設けられています。この形式は「恵比寿造」と称して伝えられています。

現存する幕末の町屋として貴重な建物です。

※ 下屋…母屋から差し出して作られた屋根
「大辞林」三省堂より

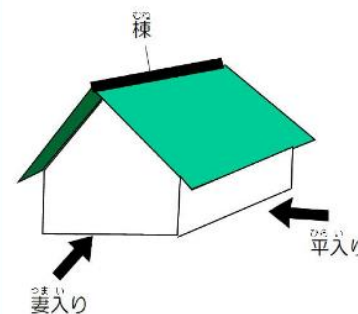
妻入りと平入り(つまいりとひらいり)

棟(屋根の頂上で水平な部分)と直角の面を「妻」、平行の面を「平」といい、妻に入口のある建物を「妻入り」、平に入口のある建物を「平入り」と言います。

桐生新町では、通りに面する戸建ての建物は平入りが多く見られます。

※ 下屋…母屋から差し出して作られた屋根。

「大辞林」三省堂より



妻入り

平入り